

鳥取県立博物館 年度別利用数の推移

区分 年度	常設展		特別展・企画展		普及活動		研究相談	小計	許可利用			合計
	個人	計	名称	計	館内	館外			展示室	講堂・ 会議室	計	
		人	(※美術部門は太字で記載)	人	人	人			人	人	人	
平成23年度 (338日)	個人	29,348	盛岡柳展 ( 4.9 ~ 5.22)	3,966								
	団体	5,180	O C E A N ! ( 7.16 ~ 8.28)	16,482	1,745 [414]	10,191	236	75,637 [414]	22,169	2,200	24,369	100,006 [414]
			大久保英治 ( 11.16 ~ 12.25)	1,751								
	計	34,528	鳥取鉄道物語 ( 2.11 ~ 3.20) 計	6,738 28,937								
平成24年度 (334日)	個人	34,658	柳宗悦展 ( 4.7 ~ 5.20)	8,108								
	団体	5,159	大木のこ展 ( 7.14 ~ 9.2)	20,090	2,807 [462]	2,852	182	82,647 [462]	22,806	1,609	24,415	107,062 [462]
			須田国太郎展 ( 10.20 ~ 11.25)	2,916								
	計	39,817	発掘された日本列島 ( 1.12 ~ 2.24) フナイタケヒコ展 ( 2.16 ~ 3.24) 計	3,368 2,507 36,989								
平成25年度 (354日)	個人	25,935	サルとヒト ( 7.13 ~ 8.25)	7,740								
	団体	4,998	フアインバーグ展 ( 10.5 ~ 11.10)	9,041	2,807 [462]	2,852	182	62,038 [462]	22,806	1,609	24,415	86,453 [462]
			鳥取藩二十二士と明治維新 ( 11.23 ~ 12.23)	3,110								
	計	30,933	Variations 一 絵画の光景 ( 1.11 ~ 2.14) 菅橋彦展 ( 2.22 ~ 4.6) 計	1,650 3,723 25,264								
平成26年度 (331日)	個人	27,332	トスカーナと近代絵画 ( 4.15 ~ 5.27)	4,044								
	団体	4,578	大麒麟獅子展 ( 6.7 ~ 7.6)	2,906	2,263 [481]	8,537	485	66,504 [481]	14,193	1,541	15,734	82,238 [481]
			胸キュン☆サンゴ展 ( 7.19 ~ 8.31)	11,726								
	計	31,910	流 体 ( 11.15 ~ 12.14) 小島基と戦後鳥取の産業工芸 ( 2.21 ~ 3.22) 計	1,687 2,946 23,309								
平成27年度 (336日)	個人	48,331	レオナール・フジタ展 ( 5.16 ~ 7.5)	6,704								
	団体	3,864	大恐竜展 ( 7.18 ~ 8.30)	30,504	2,727 [757]	6,972	437	109,839 [757]	24,809	2,497	27,306	137,145 [757]
			日本近代洋画への道 ( 10.3 ~ 11.8)	4,184								
	計	52,195	鳥取と戦争 ( 12.5 ~ 1.11) 探究する工芸家たち ( 2.27 ~ 3.21) 計	3,294 2,822 47,508								

(普及活動・館内欄( )はギャラリートーク参加者数で同欄において外数、館外欄( )は巡回展入場者数で内数)・(許可利用・展示室欄( )は共催展入場者数で内数。)

## 鳥取県立博物館 企画展入館者の状況（アンケート集計概要）

- 対象企画展：平成26年度から平成28年度（平成28年11月まで）に開催した  
13企画展（全体15企画展・・・平成28年度宇宙展、大荒神展を除く）
- 回答者数：3,553人（うち美術部門2,637人）

## ○居住地別割合

居住地	全体	美術分野のみ
県内東部地域	63.0%	64.1%
県内中部地域	10.9%	11.8%
県内西部地域	5.7%	5.4%
兵庫県	4.7%	4.7%
大阪府	2.3%	2.4%
島根県	1.8%	1.7%
岡山県	1.7%	1.7%
その他	7.7%	6.6%
無回答	2.3%	1.7%

## ○年齢別割合

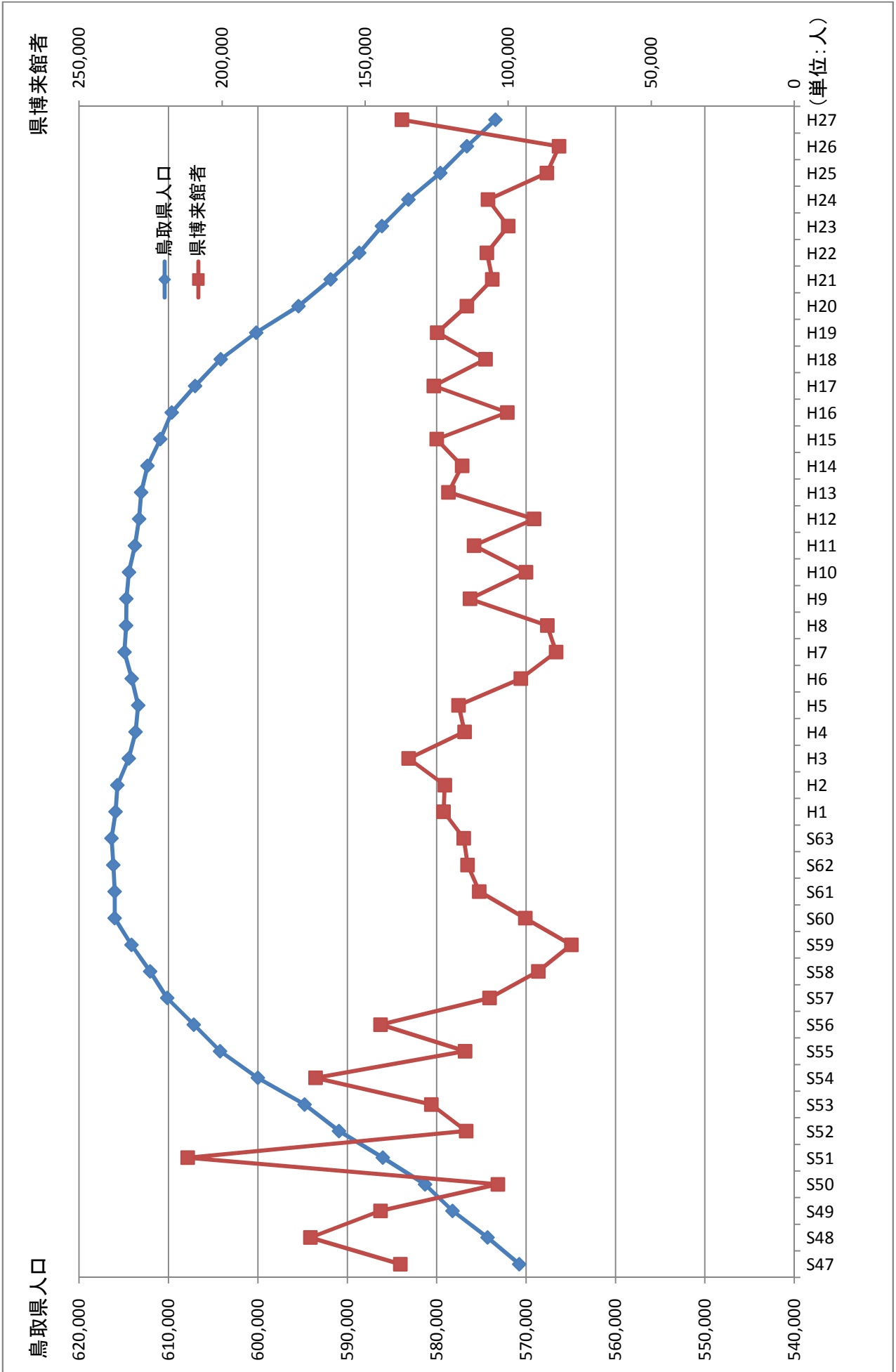
居住地	全体	美術分野のみ
20歳未満	16.9%	8.3%
20代	8.4%	8.6%
30代	7.9%	7.6%
40代	9.6%	9.6%
50代	12.3%	14.0%
60代	18.9%	22.4%
70歳以上	24.3%	28.0%
無回答等	1.7%	1.4%

鳥取県立博物館への学校来館状況

単位：人

	東部								中部					西部				
	大学	高校	中学	小学校	幼・保	特別支援	小計	大学	高校	中学	小学校	特別支援	小計	高校	中学	小学校	特別支援	小計
総計																		
H25	27	52		845		6	930				120		120	9				9
H26	13	536	268	1,347		8	2,172		17		169		186	6				6
H27	28	513	212	1,614	136	19	2,522	36	70		105		211	19				19

鳥取県人口と県立博物館利用者数の推移



## 県内の主な施設等の入込客数

単位：人

施設名等	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
米子市美術館	25,629	28,304	107,538	72,797	69,724
倉吉博物館	44,710	43,420	36,683	46,998	31,377
鳥取市歴史博物館	20,580	43,400	33,528	26,519	22,265
青山剛昌ふるさと館	89,556	77,311	77,080	103,751	106,454
砂の美術館	520,212	553,157	464,471	475,280	450,011
鳥取二十世紀梨記念館	102,791	106,692	110,467	131,970	107,331
とっとり花回廊	340,494	339,122	367,591	386,584	348,546

鳥取県立美術館の将来（2040年・2060年）集客見込み試算（素案）

対象者等	現在（2016年10月）			2040年			2060年		
	人口	569,579	人	・人口ビジョン推計人口	489,255	人	・人口ビジョン推計人口	434,426	人
	(再掲：年少人口：0～14歳)	72,754	人	(再掲：年少人口：0～14歳)	69,719	人	(再掲：年少人口：0～14歳)	67,696	人
	(再掲：生産年齢人口：15～64歳)	320,932	人	(再掲：生産年齢人口：15～64歳)	252,085	人	(再掲：生産年齢人口：15～64歳)	233,209	人
	(再掲：老年人口：65歳以上)	175,893	人	(再掲：老年人口：65歳以上)	167,451	人	(再掲：老年人口：65歳以上)	133,521	人
	積算	人数	積算	人数	積算	人数			
美術鑑賞	鳥取県民で美術鑑賞を趣味とする人の来館（15歳以上）	496,825人(320,932人+175,893人)×16.4%×1回	81,479	419,536人(252,085人+167,451人)×16.4%×1回	68,803	366,730人(233,209人+133,521人)×16.4%×1回	60,143		
	夏休みファミリー対象企画展への来館（0～64歳）	393,686人(72,754人+320,932人)×5%×1回	19,684	321,804人(69,719人+252,085人)×5%×1回	16,090	300,905人(67,696人+233,209人)×5%×1回	15,045		
	県外観光客（美術鑑賞を趣味とする人）の来館	11,000千人×63.5%（H27観光入込県外客割合）×16.5%×3%	34,575	11,000千人×63.5%（H27観光入込県外客割合）×16.5%×3%	34,575	11,000千人×63.5%（H27観光入込県外客割合）×16.5%×3%	34,575		
	外国人県内宿泊者の来館	91千人（H27観光入込外国人県内宿泊者数）×3%	2,730	91千人（H27観光入込外国人県内宿泊者数）×3%	2,730	91千人（H27観光入込外国人県内宿泊者数）×3%	2,730		
	小計		138,468		122,198		112,493		
教育普及・調査研究	県内小学生の来館	72,754人/15×1回	4,850	69,719人/15×1回	4,678	67,696人/15×1回	4,513		
	親子ミュージアム・ワークショップ等	(基本構想最終報告見込み7,000人)	7,000	(基本構想最終報告見込み7,000人×H28からの人口減少率(0.85))	5,950	(基本構想最終報告見込み7,000人×H28からの人口減少率(0.76))	5,250		
	調査研究等	(基本構想最終報告見込み830人)	830	(基本構想最終報告見込み830人×H28からの人口減少率(0.85))	705	(基本構想最終報告見込み830人×H28からの人口減少率(0.76))	630		
	小計		12,680		11,333		10,393		
県民連携	県民主権展示会への来館	(基本構想最終報告見込み46,000人)	46,000	(基本構想最終報告見込み46,000人×H28からの人口減少率(0.85))	39,100	(基本構想最終報告見込み46,000人×H28からの人口減少率(0.76))	34,960		
	アートマーケット・絵画教室等	(基本構想最終報告見込み10,490人)	10,490	(基本構想最終報告見込み10,490人×H28からの人口減少率(0.85))	8,916	(基本構想最終報告見込み10,490人×H28からの人口減少率(0.76))	7,972		
	小計		56,490		48,016		42,932		
合計		207,638		181,547		165,818			

※美術鑑賞を趣味とする人の割合（鳥取県16.4%、全国平均16.5%）は、平成23年社会生活基本調査結果（総務省統計局）によるものである。

※H28からの減少率は、平成28年10月1日現在鳥取県推計人口（鳥取県地域振興部）を1とした場合のそれぞれの年の人口ビジョン推計人口の比率である。

## 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会委員の建設場所の選定に関する意見（詳細）

## 【水沢委員】

美術館敷地についてのコメント

水沢勉

2017年2月15日

鳥取はなにをおいてもまず「砂丘」です。

おそらく日本ばかりでなく、世界中で「Sakyu」という横文字が知られ、それはさらに広がってゆくでしょう。そのぐらいの魅力が備わり、それだけでも十分にインパクトが大きいのです。

しかも、地理的に限定されることなく、海へと開かれ、**限らない広がり**が、ロマン性を感じさせます。

**地域に根差し、同時に世界に発信しようとする**これからの美術館にまさに相応しい存在であると思います。

おそらく鳥取県民にとっても、去年の知事のチャーミングなコメント、「スタバはなくてもスナバはある。」によってますます砂丘の存在感は増していると思います。

さらに重要な点は、美術館は、まさしくその地域の文化の未来へのタイムカプセルであり、それがきちんとしたコンセプトに裏づけられたコレクションを基礎とする美術館活動と相乗すれば、一気に文化的価値を増大させることができるという点です。

そのとき美術館は必ずしも都会の利便性を必要とはしません。

むしろ不便さが観光として価値を高め、やがて世界遺産も真面目に検討されることになるでしょう。

それは人類全体の文化遺産としてやがて成長してゆくものであり、そこに巡礼するような気持ちになったときにこそ、その存在意義をますます高めます。屋久島が便利である必要はなく、敦煌も自分の暮らすすぐそばにあったら魅力は半減してしまうでしょう。

**現在、現代都市の限界や問題点のほうこそを多くのひとが憂えているのです。雄大な自然の治癒するちからを秘めた場所としての砂丘は「とっとり」の未来への希望であるとしても過言ではありません。**

鳥取砂丘を初めて訪れたときに、わたしは鳥取駅からとても遠い不便な場所かと思っておりました。

でも、それははけって遠く**不便な場所ではありません**。鳥根県立美術館のように飛行場からまず立ち寄る観光スポットの一要素としての可能性が十分にあります。

また雄大な空間は野外での展示やワークショップにも可能性を感じさせます。

鳥取の最重要の近代画家のひとり、前田寛治は、倉吉の出身ですが、仲間たちと活動を開始したグループの名前は「**砂丘社**」でした。

かれらもまた**1920年**に世界に発信する意気込みをその名称に託したのです。

## 「砂丘」。

その場所に生まれる美術館。その**自然と文化の相乗**が文化的熟成の無限の可能性を予感させるのです。

とても魅力的だと思います。

立地と文化的・歴史的な意味合いはすでに申し分ありません。

塩害や、砂の影響は、丁寧なメンテナンスで技術的に乗り越えられます。

また、地下に構造体を作ることは、たいへん**エコな発想**でありえ、周囲の環境への悪影響を最小限に抑え、また、光熱費の節約になります。さらに、地下に増築空間を余裕をもって最初に予定しておけば、将来に増築もむしろ地上よりも容易に可能です。その成功事例が宇都宮美術館の地下収蔵庫です。かならず美術館は、近代・現代にかかわる以上、収蔵品の数は増えてゆきます。通常の収蔵庫のスペースはせいぜい**50年**ぐらいしかもたないでしょう。**収蔵庫問題をあらかじめ解決しておくことができます**。地下に予備の空間を完全な状態でなくてもあらかじめ用意しておけば、近い将来の展開にとってとても負担を軽減させることになります。また、そのときに小さな展示空間を増加したコレクションの眼玉となる作品の展示空間として増設すれば大きな話題になることは間違いありません。

以上のように「砂丘」という鳥取にとっての大きな文化資産を新美術館のための利用しないということはありません。

## 【福嶋委員】

県博には、現在に至るまで、永年に亘り蓄積されてきたあらゆる分野（自然・歴史等を通じて）の文化的資料（文化遺産）は常に現実感のあるものとして存在する。

芸術の分野は過去から現在に至るまで、人間の文化を歴史、文化を現実感のあるものとして把握、顕証につつ、観者は、常に自分自身の現実感のある心で向き合い、次なる新しい自分自身の姿を見付け出そうと表現を試みる連続であり常に現在進行形である。

新しい美術館の姿は、過去から現在までの文化の継承とあらゆる分野を越えて、将来の「創造性」の在り方を示す事にもある。

この視点から考えた時、現在のところ県博との連携は必須条件であり、鳥取市役所庁舎敷地が最適です。

## 【本城委員】

私たちが時間をかけて検討してきた新しい美術館のイメージは、世界でただ一つ、鳥取だけに贈られた財産である砂丘にあってこそ深められ、魅力あるものに育てていけます。

塩害や飛砂の対策、自然公園法の規制などの問題点を、現代の最高の技術力を駆使し、一つ一つ解決する過程が私たちの美術館という一体感を生み出します。「県民のアイデアと愛情で運営される」のは、完成した美術館だけにあてはめられるものではありません。出来る前から、今から想像力や創造性が膨らみ、可能性を追求できる場所として、誇りを持って県内、県外、世界へと発信し、注目を集めることでしょう。

困難を克服してこそ喜びは無限大です。比較して基準を決めて、そこから結論を導くことが最良の方法とは思えません。

文化は過去と未来をつなぐ豊かな心の財産です。自然の財産と心の財産が融合してできる、世界に二つとない私たちの美術館。夢は限りなく広がります。



## 【森口委員】

美術館建設場所について

森口まどか

美術館建設の建設場所に関する県民意識調査の結果は重要ですし、尊重されるべきことに論を俟ちません。しかしながら、3カ所の建設候補地の順位の差は僅差であり、1票でも得票が多ければ該当者が選ばれるというような選挙結果ではないならば、改めて建設場所について専門的見地を含め検討されても良いのではないか、と思います。

私は、先の各委員の意見概要表にあります通り鳥取市役所跡地が最も妥当な場所と考えています。

本委員会の初回だったと記憶しておりますが、仁風館で開かれた委員会を思い出します。旧鳥取城敷地内に県庁所在地に相応しい佇まいがきちんと整えられている地であることが感じられ頼もしかったです。

県庁所在地というのは、いうまでもなく、単に行政機能を担う場所ではなく各都道府県の顔であり象徴的な場所です。長年にわたって積み重ねられてきた品格を県外からの来訪者は感じるのです。博物館という館は、そうした品格や芸術文化に対する見識を具体的に示す役割を担ってもいます。そうした役割を鳥取県立博物館は果たしてきておりますし、これからは益々県の顔を示してゆく必要があります。従って県庁周辺の環境が新美術館によって整備され、より印象的な場所となることは重要です。

さらに重要なのは、三分野（自然、歴史・民俗、美術）が揃っているミュージアムが少ない昨今、先の三分野が連携を保ってゆくことです。いろいろな視点から「物」を確かめる経験を通じて私たちは知の世界の広がりを感じ、思考を深めてゆきます。新美術館が他の二分野と近距離にあることによって、鑑賞者が容易に物と物とを往還しながら、大きな世界を見つけてゆくことができる場所を提供できるのではないのでしょうか。

すでに揃っている分野を分散させることになるのは、これまで築き上げてきた貴重な財産を取り崩すことになると思います。

## 【来問委員】

鳥取県立美術館建設場所の選定について

基本構想検討委員 来間直樹

- ・ 建設場所に関する意識調査と専門委員の評価の取り扱い

今回の敷地についての意識調査の結果は、上位3候補地が僅か3%の中に並ぶという結果であり、一候補地が過半数という結果ならともかく、三割に届かない場所を選定することは残り三カ所の7割の意見を黙殺することになり、無理があると考えます。また、評価委員によるそれぞれの敷地の評価は、4カ所の候補地についてはどれも「適地」という結果であり、点数化すれば順位がつくがこれは敷地の優位性を決めることにはなりません。(6/21の委員会の議事録によれば単純に○△×の数によって決めずに・・・とある。) よって「県民意識調査と評価委員の意見を尊重する」のであれば一カ所に絞ることは困難であり、違う評価軸を加えて検討し決定する必要があると考えます。

加えて、立地の検討で感じることを。鳥取県は横に長く・・・とよく言われますが、長いと行ってもわずか100kmです。こしも珍しいことではありません。今後長期的に見ると鳥取県では県の東西が短時間で結ばれ本当の意味で一体となることを目指すべきと考えます。人口が減少する中、こんな小さな県で東部だ中部だと西部だといっている事自体ナンセンスと感じます。

- ・ 県民に支持される美術館とするには

最大100億の投資をするということは、当然50年～100年支持され存続するものであるべきことは言うまでもありません。そのために丁寧に必要性を説き、多くの時間をかけて基本構想を議論されてきました。ただ実際社会教育施設としての美術館がもたらす成果については指標がない分評価が簡単ではないと考えます。一方どれだけ利用されているか、つまり「入館者」は数字ではっきりとして成果といえるものです。基本構想では年間20万人を想定していますが、現在の美術部門の入館者6万人を考えると簡単な目標ではありません。6万人の内訳は企画展アンケートを参考にするとおおよそ東部64%中部12%西部6%。県外からはおおよそ2割以下にとどまっています。(資料1)アンケートの傾向を見ると県内の利用者も中部に立地した場合現在より大きく増えるか疑問です。仮に県内の利用者が仮に倍になっても20万人を達成するには観光と結びつき県外の入館者を増やす意外に方法が無いと考えます。また全国の県立美術館で人口10万人を切る都市に立地している県立美術館の例は県庁所在地と複数館とするものや、陶芸などジャンルを絞るもの、また特定の作家の作品を展示するものに限られており、その多くが年間10万人を越えていません。(資料2)長期的な入館者の伸び悩みは、県民の愛着を奪っていくことになり、学芸員のモチベーションも下がることにも繋がります。翻って県外から多くの入館者を集める魅力的なものになれば、鳥取の美術を全国に広め、県民の誇りとなるでしょう。お隣の島根県立美術館はコレクションや企画力も素晴らしいですが、観光と繋がる松江らしい魅力的な立地とそれを活かした建築も年間20万人から30万人に達する入館者に寄与しているとおもいます。

- ・ 鳥取砂丘というどこにもない価値

鳥取砂丘西側敷地は県民調査では支持がやや少ない結果です。しかしながら入館者の達成を考えると鳥取砂丘の入込数や砂の美術館の入館者が48万人という実体は魅力的なものです。建築について自然公園内の規制で難易度が高いことは確かですが、敷地の設定のしかたや地下部分の割合によっては分棟にしなくても建築できる可能性もあるのではないかと、斜面地であることから地盤面の設定によっては埋める部分も少なくできるかもしれません。また自然公園の規制についても元々国民宿舎等で利用されていた地域であり、しかも現在打ち捨てられたような状態にある。環境省との折衝も可能性があると思えるのです。むしろそのようなマイナス要素を上手く解決すれば、多少お金がかかるかもしれませんが、地下を中心に丘陵に張り付くような美術館は環境負荷が低く、その存在が砂丘に溶け込む素晴らしいものになる可能性を秘めています。そして鳥取砂丘という全国でも唯一無二の場所にある美術館は、とてもわかりやすく、全国どこにもない「とっとりらしい美術館」となるでしょう。

資料 1

県立博物館 来館者の住まい 企画展アンケートの集計による

④住まい	合計	割合	合計	割合
1:県内東部	2,238	63.0%	1,689	64.1%
2:県内中部	387	10.9%	312	11.8%
3:県内西部	203	5.7%	142	5.4%
4:兵庫県	167	4.7%	123	4.7%
5:大阪府	82	2.3%	63	2.4%
6:島根県	63	1.8%	46	1.7%
7:岡山県	59	1.7%	44	1.7%
8:その他	273	7.7%	174	6.6%
無回答	81	2.3%	44	1.7%
合計	3,553		2,637	

資料 2

人口10万人以下の都市に立地する県立美術館

	開館	所在地	人口	面積	入館者数	備考	県内他の県立美術館
秋田県立近代美術館	1993	秋田県横手市	103,000 人	11,000 m <sup>2</sup>	83,000 人	2001-2013平均	秋田県立美術館(秋田市)3,500m <sup>2</sup>
群馬県立館林美術館	2001	群馬県館林市	76,000 人	7,000 m <sup>2</sup>	70,000 人	H25	群馬近代美術館(高崎市) 企画展中心
神奈川近代美術館葉山館	2003	神奈川県葉山町	3,300 人	7,100 m <sup>2</sup>	52,000 人	2011展覧会観覧者数	鎌倉館(閉鎖)鎌倉別館
石川県七尾美術館	1995	石川県七尾市	58,000 人	3,000 m <sup>2</sup>	42,000 人	1995-2006 平均	石川県立美術館(「金沢市)
島根県立石見美術館	2005	島根県益田市	47,000 人	m <sup>2</sup>	82,000 人	H21	島根県立美術館(松江市)
山口県立萩美術館	1996	山口県萩市	50,000 人	5,200 m <sup>2</sup>	70,000 人	H18	山口県立美術館(山口市)

その他 茨城県陶芸美術館 滋賀県立陶芸の森 香川県東山魁夷美術館など

## 鳥取県議会総務教育常任委員会（平成 29 年 2 月 24 日開催分）質疑 議事録

議 員	教育委員会
<p>●西川議員 現在は教育委員会で検討されているとのことだが、これは教育委員会事務局ではなく、6名の教育委員ということか。そこで方向性が決定されるのか。</p>	<p>●大場館長 教育委員会は、教育委員会事務局の上にある意思決定機関であり、そこで議論してもらっている。事務局としては色々資料を出して、それに基づいて検討していただいております、そこで方向性が出される。</p>
<p>●福浜議員 美術館に小学3（4）年生を集めるとあり、良い取り組みと思うが、この計画では7年後となる。今のところ、子ども達に対する学校現場での美術教育が弱いと感じるので、開館してからやるのではなく、段階的に何か始めるとか、そういう予算が必要と思う。どのように考えているのか。</p>	<p>●大場館長 今から開館に向けて準備することは色々ある。今後逐一やっていきたい。 ただ、基本構想では未だ大まかな方向性のみなので、基本計画で実際に美術館でやることを具体的に決めてからと考えている。</p>
<p>●福浜議員 ネットワーク推進事業についてだが、今から鳥取県立博物館が倉吉博物館、米子市博物館などとネットワークを組んでワークショップとか、子ども達に対する美術教育を行う体制を構築すべきと考えるがどうか。</p>	<p>●大場館長 倉吉なり米子なり、その他の所とも一緒になって取り組めることを検討し、こういうことを一緒にやろうと列挙してメニュー化する取組を来年度実施しようと考えている。 そうして一緒にやれることを具体的にピックアップしておけば、次の年からでもやっていける。</p>
<p>●福浜議員 構想の中で小学3（4）年生を招待することは必要だと思う。そのため徐々に管理職を含めて、舞台芸術も含めて、芸術に対する理解や想像力を高めるよう教育全体で取り組んでいくべき。</p>	<p>●山本教育長 来年度はそれに相当する事業はまだ出せてないが、教育委員会でも子どもたちの創造性を高める取組みなどを基本構想に盛り込んでいくべきだとの話もあったので、対応を考えたい。</p>
<p>●濱辺議員 教育委員会で検討中とのことだが、そこで結論が変わる可能性はあるのか。</p>	<p>●大場館長 教育委員長も検討委員会の最終報告を尊重したいと仰っており、教育委員会としての最終とりまとめが、がらっと違った内容のものになることはないと思う。</p>
<p>●濱辺議員 アンケートがあつて美術館の個所が提示されたことで、この地に美術館を建設するのだという偏った流れができたように思う。そのような中で、場所を今決めるべきなのか。我々も決めたことになるのか。構想の中には美術館の利用者数なども出てくるが、利用者の集客に関しては人口規模など様々な要因が影響する。 それらについてもっと議論すべきと考える。</p>	<p>●大場館長 今回策定するのは基本構想であり、基本的な方向性を定めるもので、施設の大きさも幅があるし、入館者見込みや運営費もそうだ。これらを最終的にどれ位にするのかは次のステップで考えること。きちんと詰めようと思うと、場所を確定させねばならない。その意味で場所は今回の構想で確定させる必要がある。 この構想に基づいて基本計画に進む予算を議決いただいた場合、議会としても場所について承認をいただいたことになると思っている。</p>

議 員	教育委員会
<p>●濱辺議員 基本構想で20万人の利用を見込んでいるが、そのためには人口規模も考えないといけないのではないか。また、交通の利便性等を考えていかなければならないと感じる。そういう面で、まだ議論が足りないと思う。</p>	<p>●大場館長 基本構想では利用者を20万人と見込む一方、10万人という見込みも掲げている。場所も決まらない段階で正確な目標値を出すのは無理。 ただ、どんな場所にどれくらいの大きさの施設を作り、どれくらいの人に利用してもらうのか示さないと、作っていいかどうか県民も判断できないので、その判断材料として作ってきたのが基本構想。 その基本構想についての県民の意向は伺った。それに沿って美術館を作ることについての教育委員会と知事、議会の判断が今議会中に示されるのだと思う。 美術館として来館者の目標をどれ位にするかは、20万ありきではなく、改めて基本計画で検討する。それに応じて、規模や事業費も基本計画で詰めていくことになる。</p>
<p>●伊藤議員 教育委員会は検討委員会が出されたものを、今は検証しているのか。</p>	<p>●山本教育長 附属機関の検討結果を事務局で勝手に変えるべきではないと考えて、最低限の変更（主語を変える程度）で教育委員会にお諮りした。 教育委員会では、検討委員会の検討結果は最大限尊重すべきだが、これから何十年に亘って県民が利用する施設を考える上で、我々としても議論して盛り込むべきことはないか、集中審議で議論することとされた。 検討委員会の検討結果を最大限尊重しながら、更に人口が減少する中での対策の必要性や、将来を担う子ども達のために何をビルトインすれば、そういうことがよりできる様になるのかといったことを議論して盛り込んでいく。</p>
<p>●伊藤議員 議会へは早急に報告することだが、新年度の大きな目玉政策の1つであり、本来なら当初で提案され、各議員が一般質問で揉むべきこと。 これから知事に報告して、知事が提案する場合、議員はいつどこで議論するのか。全員協議会や常任委員会で議論するのか。</p>	<p>●山本教育長 この議会で議論していただけるタイミングで、できる限り早く結論を出して知事に報告し、議会にも報告したい。</p>
<p>●伊藤議員 この常任委員会のメンバーはこれまでの経緯や内容を理解しているが、他の議員はそうでもない。 これだけの大きな問題を全議員が理解するためには、本当はどこかで全員協議会で議員に説明する形をとらないと、揉むところがない。</p>	<p>●山本教育長 とにかく早く教育委員会の結論を得たい。 知事部局とも議会とも相談が必要と思っており、相談できるタイミング内に結論が得られるよう努力する。</p>

議 員	教育委員会
<p>●福浜議員 「居住地にこだわらず全県的な視点から判断して回答した人も多い」とあるが、2割が多いと客観的に言えるのか。</p>	<p>●大場館長 2割をどう捉えるかは判断が分かれる所だが、特に違和感を訴えた方はいなかったなので、そう特別な見方とは思っていない。</p>
<p>●福浜議員 私は違和感を感じる。事前に場所が近い所を選ぶ人が多いという先入観があるから、2割が意外に多いと感じるだけ。削除すべき。</p>	<p>●大場館長 多少主観的かもしれないが、事務局として結果をどう捉えたのかを示す資料として出した。検討委員会に出した資料にこう書いてあるので、今更削除するのは難しい。 ただ、これ以降この資料をそのままの形で使うこともないので、その時には気を付けたい。</p>
<p>●福浜議員 立地場所については、倉吉ラグビー場を否定する要素が無く、検討委員会が総合的な知見から選んだものを教育委員会が否定するのは難しだろう。 博物館の美術部門が40年ここにあったのが消えることの重さをどう感じるか。サテライト的にスペースを空けて企画展や市展・県展を行うとあるが、常設はなくなるのか。学芸員が子ども達のためのワークショップを近い所でやるべきだとも思う。いずれにしても、企画展だけやるのが、40年の歴史に値するとは思えない。 中部に建設すること自体は否定はしないが、全県的に美術の振興を図る上で、学芸員もいない、企画展だけやるでは、私は賛成できない。東部や西部がどういう形になるかはっきり示すべきだ。</p>	<p>●大場館長 東部から美術分野が出て行った後をどうするのかとの指摘は検討委員会でもあり、少なくとも展示会はできるようにすべきとのことだったが、それだけにとどまらず、美術館の分館的なあり方、展示以外の機能も含めて、色々できる様な方向も考えるべきだという議論もあった。 教育委員会でも同様の話が出ており、東部地域についてはそういう方向を盛り込むことになると思う。ただ、全ての地域について今後どうするというところまでは盛り込めない。</p>
<p>●福浜議員 その点ははっきりしてほしい。1ヵ所に大きなものを作ってしまうと、そこに来て下さいとなってネットワークづくりが軽視されかねない。中部に100億円の施設ができ、東部はサテライトしかないのでは、有権者に申し開きできない。</p>	<p>●山本教育長 まさに今教育委員会で議論しているので、今日は御意見として承り、教育委員会に今日の御意見を報告し、議論したい。</p>
<p>●濱辺議員 先程集客等は場所が決まってからと言われたが、どこに建てるか選ぶ際に集客は重要。教育機関との連携や、日常的に気楽に美術館に行って子ども達に美術文化を伝えるということを考えれば、人口の多さや交通の利便性が大きく評価される。そういう点からもっと議論が必要。</p>	<p>●山本教育長 今の御意見も含めて、教育委員会へ報告し、議論したい。</p>
<p>●上村議員 美術館の建設後も博物館は今の場所に残るということを確認しておきたい。</p>	<p>●大場館長 美術分野は外に出すが、残った博物館は、自然・歴史分野の博物館として活用していくということが前提。</p>

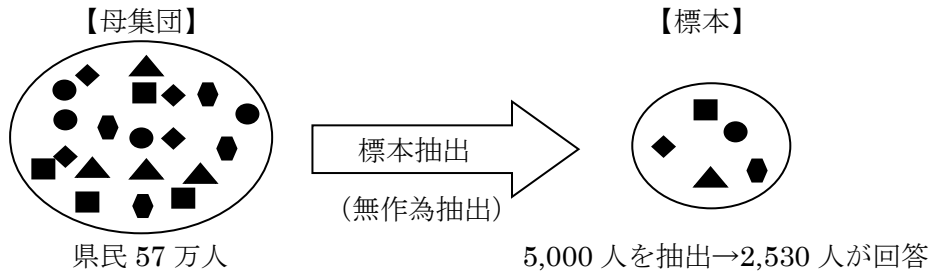
議 員	教育委員会
<p>●西川議員 教育委員が今検討しており、そこで決定すると伺った。その中で将来人口が減る問題も検討しているというが、今更それを言うのはおかしい。 教育委員会としては、検討委員会の答申についてアンケートがどう反映されたか、教育委員会としてはそれをどう判断するかを議論すべきであって、将来の人口減少の問題などの話を今更出したら、アンケートは何だったのかとなる。 検討委員会に付託した以上、その結果を判断すべき。結果以前の話に戻ることはあってはならない。</p>	<p>●山本教育長 検討委員会で時間をかけて検討されたことについて、高齢化、人口減などを見越して、教育委員会として更に検討して何か入れるものがないかという視点で議論している。 人口が減ることを見越して場所を判断するというではない。</p>
<p>●西川議員 基本計画の検討委員会も作られるようだが、今言われた話は、そこで議論すべきこと。立地場所について、今更の議論は不要。</p>	<p>●山本教育長 立地場所を含めて、教育委員会としての基本構想の最終とりまとめを行うのが今の作業。 今までに中間まとめをしており、立地以外は一通りまとまっている。残った立地について、最終まとめをするにあたり、もう少し盛り込めるところがないか検討している。</p>
<p>●西川議員 今は4ヵ所に絞った候補地を選択する段階で、先程のようなことは前に出て来ており、当然中間報告にも入っている。それなのに、教育委員会は中間報告も全然検討しないで、今、土地も含めて一緒に検討しているのか。 わかったが、これまでの経緯を踏まえると、少しやり方に違和感がある。最後は教育委員が責任を持って決めることだ。</p>	<p>●山本教育長 検討委員会から最終とりまとめを教育委員会が判断する際、熟慮する観点として、何十年も使う施設なので、その間に人口が減っていく時に県民にしっかり使っていただくための対応を盛り込む必要性や、特に子ども達の創造性を伸ばすプログラムとして3（4）年生を全県から呼ぶプログラムもあるが、美術館がどこに立地してもどの学校も恩恵が得られるようにするためには、ということが考えられるか、美術館スタッフの在り方など、基本的な方向性についてももう少し盛り込むことがあるのか、少し時間をかけて議論したいと考えている。</p>
<p>●濱辺議員 今後の教育委員会での検討日程、議会報告の日程はどうか。</p>	<p>●山本教育長 委員全員が出席できるように土日も含めて調整中。今明確に回答できないが、できるだけ速やかに結論を得るように努力する。</p>
<p>○内田委員長 博物館の在り方は別の委員会ですることになっていた。それに踏み込み過ぎた議論がされている。そこは分けて考えてほしい。</p>	<p>●大場館長 美術部門が出た後の博物館あり方は、博物館協議会で検討している。 今回検討委員会からは、あくまでそういう方向で検討してもらうようお願いしておくということ。この後博物館協議会で議論し、その検討内容は常任委員会に報告する。</p>

## 標本調査の考え方

平成 29 年 2 月 22 日 統計課

### 1. 標本調査の仕組み

- 標本調査は、母集団から標本を抽出して調査し、その結果から母集団の性質を推定するもの。
- 標本を抽出することで生じる誤差の大きさは、確率論的に計算することができる。
- 今回調査は、以下のように標本を抽出して実施。



### 2. 今回調査の結果（新美術館の建設地として最も適切だと思うもの）

① 旧運転免許試験場跡地	② 倉吉市営ラグビー場	③ 鳥取市役所庁舎敷地	④ 鳥取砂丘西側一帯	無回答等	合計
643 人	722 人	635 人	465 人	65 人	2,530 人
25.42% (2 位)	28.54% (1 位)	25.10% (3 位)	18.38% (4 位)	2.57%	100.00%

- 1 位と 2 位の差 (②-①) : 3.12%
- 1 位と 3 位の差 (②-③) : 3.44%
- 2 位と 3 位の差 (①-③) : 0.32%

### 3. 各候補地の選択率の信頼区間

- 上記の結果について、一般的な「信頼水準 95%」で「信頼区間」を計算すると、次のとおり。
- ⇒ 真の値（母集団の値）は、95%の確からしさで、次の範囲内にあると考えられる。

- ①旧運転免許試験場跡地 : 23.72~27.11%
- ②倉吉市営ラグビー場 : 26.78~30.30%
- ③鳥取市役所庁舎敷地 : 23.41~26.79%
- ④鳥取砂丘西側一帯 : 16.87~19.89%

### 4. 選択率の差の信頼区間

- 候補地①~③は信頼区間に重複が見られるため、さらに順位の有意性を確かめるため、選択率の差の信頼区間を計算すると、次のとおり（それぞれの信頼区間の単純な差引きではない）。

- 1 位と 2 位の差 (②-①) : 0.26~5.98%
- 1 位と 3 位の差 (②-③) : 0.59~6.29%
- 2 位と 3 位の差 (①-③) : -2.45~3.09% ⇒ 信頼区間が正負に跨がるので、順位逆転があり得る。

### 5. 結論

- 今回調査の結果から、県民全体でも倉吉市営ラグビー場が最上位になる可能性が大きいと考えられる。ただし、次点が旧運転免許試験場跡地か鳥取市役所庁舎敷地かは判断し難い。



## 【参考】信頼区間の計算について

### I. 基本的な考え方

- 標本調査では、母集団から標本を抽出することで生じる誤差の大きさを考慮して、結果の値に幅を持たせて解釈される。そのために計算されるのが、「信頼区間」。
- 信頼区間とは、一定の確率において真の値(母集団の値)が含まれると推定できる範囲のこと。ここでいう「一定の確率」は「信頼水準」と呼ばれ、一般に95%とおかれることが多い。
  - ※ 例えば、信頼水準95%において信頼区間が10~20%という場合、真の値は95%の確からしきで10~20%の範囲内にあるという意味。

### II. 信頼区間の計算方法

- 信頼水準95%における信頼区間は、次のように計算される。  
信頼区間：標本調査の結果の値±(1.96×標準誤差)
- 標本調査によって得られた割合  $p$  の標準誤差は、次のように計算される。

$$\text{標準誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}} \doteq \sqrt{\frac{p \times (1-p)}{n}}$$

$N$ ：母集団の大きさ  $n$ ：標本サイズ(回答数)

- 標本調査によって得られた割合  $p_1$  と  $p_2$  との差の標準誤差は、次のように計算される。

$$\text{標準誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p_1 + p_2 - (p_1 - p_2)^2}{n}} \doteq \sqrt{\frac{p_1 + p_2 - (p_1 - p_2)^2}{n}}$$

### [参考文献]

- 鈴木武・山田作太郎『数理統計学—基礎から学ぶデータ解析』内田老鶴圃，1996.
- 白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版』日本評論社，2015.

鳥取県教育委員会 委員長 中 島 諒 人 様

# 要 望 書

【県立美術館建設候補地選定の観点について】

## 県都・鳥取市に県立美術館の建設を願う会

鳥取商工会議所、鳥取市文化団体協議会、鳥取書道連盟、鳥取市3商工会連絡会、(公財)鳥取市文化財団  
鳥取市自治連合会、鳥取市民美術展運営委員会、(一財)鳥取市教育福祉振興会、(社福)鳥取市社会福祉  
協議会、(社福)鳥取福祉会、(公財)鳥取市シルバー人材センター、因幡郵便局長会、鳥取市消費者団体連  
絡協議会、(協)鳥取鉄工センター、(協)鳥取卸センター、(一社)鳥取市観光コンベンション協会、鳥取市  
連合会婦人会

## 【趣旨】

県立美術館建設候補地選定の観点について

## 【説明】

鳥取県教育委員会事務局は、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会の最終報告書を受けて県立美術館の建設地を「倉吉市営ラグビー場」の1カ所に絞った最終とりまとめ（案）を教育委員会へ提出されたと伺っています。

先日開催された臨時教育委員会の中では「人口減少が進んでいく将来、定住人口が少ない倉吉市に建設することが適当なのか」という意見や「次世代を担う子供たちにとって受け身の教育（education）ではなく自主的に学ぶ（learn）場でなければならない」といった指摘がありました。

我々、県都・鳥取市に県立美術館の建設を願う会は、県民意識調査の結果は4候補地を見た場合「倉吉市営ラグビー場」が回答数は最多ですが僅差であり上位3つについては統計上標本誤差の範囲と認識しており、県民の総意を示した調査とは言い難いと考えます。また3自治体別でみた場合、2つの候補地が残った鳥取市は回答数が分かれる不利な状況の中でも他の2つに近い回答数を獲得しており、鳥取市の候補地2つを合わせると一番多く支持されているという読み方もできます。

教育委員会が指摘されたように美術館は収益施設とはいかないまでも来館者数の確保は重要な要件であり、目標としている来館者数20万人を将来にわたって達成していくには、生活圏に住んでいる人の利用が欠かせないと考えています。

このため教育委員会事務局が示している「県民一人ひとりが支える“県民立美術館”」、「応接間のように県民が気軽に立ち寄る美術館」がコンセプトであるとするならば、定住人口が多く日常的に利用してもらえ場所に建設することが自然と考えます。

さらには次世代を担う子供たちに受け身の教育（education）ではなく自主的に学ぶ（learn）場を提供するという観点についても、情操を養うためには美術だけではなくあらゆるモノ、コトに触れる機会が必要であり、近隣に県立博物館や県立図書館、公文書館などがあり連携が図れる鳥取市こそがふさわしいと思われ、学芸員が日々の研究活動を行う環境としても最適な立地条件であるのは明白です。

つきましては以上のような点を踏まえ「次世代のための美術館」という視点で適地を決めていただきますよう要望します。

平成29年2月27日

県都・鳥取市に県立美術館の建設を願う会  
会長 藤 縄 匡 伸

## 鳥取県教育委員会

教育委員長 中島諒人様

鳥取商工会議所は、「鳥取の元気」、「会員の元気」を合言葉に頑張っています。これを実現するため、「4つの連携」と「3つの充実」を実現することが必要であると  
言ってきました。

「3つの充実」とは、「文化、医療、教育」で、いずれも鳥取の人口を増やすために必要なものです。

「文化」の充実とは、美術館や映画館がないような所には、都会からUターン、Iターンしてくれる人はいませんし、地元の若い人も出て行ってしまいます。

そうしたことから、「鳥取の元気」実現のため「7つの重点プロジェクト」を推進してきました。

- 即ち、1. 県立美術館 2. 工芸村 3. シネコン 4. 北前船寄港地フォーラム  
5. 日本一の砂時計 6. 足湯 7. 多鯰ヶ池周辺整備

1~4が主として「文化」に関するもの、5~7が流入人口を増やす大きな柱の「観光振興」に関するものですが、7つとも「鳥取の元気」のために資するものです。

とくに、『県立美術館』に話をしげると、「地域振興に大いに役立つ」、「県民の文化的素養の涵養や独創性の育成」、「鳥取ゆかりの絵画、彫刻、書、工芸等の継

承等々の効用」が期待できます。

このようなことを考えると、『素晴らしい美術館』にするには、2つの要素「いろいろな人が沢山、気楽に来てもらえること」、「地域づくりのためいろいろな人や機関と連携しやすいこと」を考えなくてはならないと思います。

つまり、具体的には次の、「JR、空港、バス路線等交通アクセスが便利である」、「周辺に商店街等集客機能があつて、買い物や遊びのついでに立ち寄れる」、「文化施設や教育機関とも連携しやすい」、「地元の熱意、協力が得やすい」、そして「学芸員の日々の研究活動がやりやすい」ことが重要な要素だと思います。

現在、県立美術館のある43道府県中、41が県庁所在地と聞いており、このことから、県庁所在地にあるのは、ごく自然なことと思います。

県東部、鳥取は美術館に対する熱意がないとの声をも聞きますが、一昨年5万3千人余の署名は、県民、市民の熱い思いそのものです。

我々のこの思いをお汲み取りいただきますよう、切にお願いするものです。

平成29年2月27日

鳥取商工会議所

会頭 藤 縄 匡 伸



発 企 第 138 号  
平成 29 年 2 月 27 日

鳥取県教育委員会  
教育長 山本 仁志 様

北栄町長 松本 昭夫



美術館の建設場所に関する意識調査結果について（要望）

日ごろから、北栄町の文化、芸術行政にご支援、ご協力いただきありがとうございます。

現在、美術館建設地及び基本構想について教育委員会で最終的な検討がされているところですが、別添のとおり鳥取県立博物館長宛てに提出しました要望書につきまして十分な対応がなされていません。また、鳥取県民立の美術館を建設するために行われた意識調査の結果が議論に十分反映されないままとなっていることから、教育委員会にも下記の点について留意して検討を進めていただくため要望書を提出いたします。

記

- 1 当町の要望は、意識調査結果について客観的な分析をし、美術館整備基本構想検討委員に分析結果を提供していただき公平な最終判断をお願いしたものでした。要望書の周知はされたものの分析は大まかな傾向に留まり、様々な条件設定し、多数の質問がなされていながら、現時点まで、詳細な分析、考察はなされていません。候補地の選定において、県知事及び県教育委員会が県民の声を重要視される中、詳細な分析・考察は重要と考えます。速やかな実施・公表し十分な議論を行うことが必要です。
- 2 今回の美術館整備にとって最も重要な鳥取県民立の美術館を建設するという観点から、検討委員会へ提供された資料を当町が行った分析結果で留意されるべきと考える点は以下のとおりです。
  - (1) 建設候補地がない西部では、旧鳥取県運転免許試験場跡地の回答が最も多い。
  - (2) 地域として適地との回答は、中部が過半数を超え、約 10.5%差が開いている。
    - ・ 東部（鳥取市役所庁舎敷地＋鳥取砂丘西側一帯） 1,100（43.5%）
    - ・ 中部（運転免許試験場跡地＋倉吉市営ラグビー場） 1,365（54.0%）

(3) 居住地地域以外の回答数を合計した数では、旧鳥取県運転免許試験場跡地の回答が最も多い。

(4) 地元意識の反映を避けることができない本意識調査においては、居住地等の条件設定や市町村の人口規模等を十分に考慮した分析が必要

※北栄町は、人口規模で鳥取市の約 1/12、倉吉市の約 1/3 となります。

市町村の人口に応じて配布された意識調査票の数も同じ割合です。

上位 3 候補地が統計学上、誤差の範囲内であることを考えれば、旧鳥取県運転免許試験場跡地を居住地以外の方が適地とされた数は非常に多く、無視できないものです。

(5) 県民立の美術館にするため、様々な人が気楽に訪れる場所が重要視される中、最も適切な候補地の理由（問 9：自由記載）などで回答されている傾向も含め、十分に精査した分析が必要です。

※旧鳥取県運転免許試験場跡地について、交通アクセスの利便性等を理由とされた数は一番です。

3 今回、様々な場所で検討が進められる中、東部＝鳥取市、中部＝倉吉市という議論が非常に多く、町にある旧運転免許試験場跡地について、県民が一番気軽に訪れやすい場所として多くの評価がありながら、十分な議論、取り扱いをされないままとなっています。県民の声に基づいた意識調査結果を十分に分析・考察した上で、反映させた上で、客観的で公平な議論が必要です。

※委員提出の文章ではありますが、前田寛治が倉吉出身と記載され、指摘しましたが、注釈もないままそのままの公表となっています。また、「砂丘社」の記述についても北栄町にある北条砂丘が元により名づけられたものです。

担当

企画財政課長 小澤

TEL 0858-37-5864

生涯学習課長 杉本

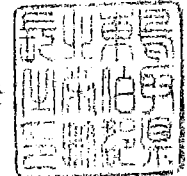
TEL 0858-37-5871



発 企 第 133 号  
平成29年2月10日

鳥取県立博物館  
館長 大場 尚志 様

北栄町長 松本 昭夫



美術館の建設場所に関する意識調査結果について (要望)

日ごろから、北栄町の文化、芸術行政にご支援、ご助力いただきありがとうございます。

本日、第12回鳥取県美術館整備基本構想検討委員会が開催されたところですが、建設場所に関する意識調査の結果分析について下記のとおり留意していただきたい事項があり、要望書を提出いたします。

次回会議まで時間が無く大変な状況であることは十分承知しておりますが、委員のみなさまに客観的な意識調査の分析結果を提供していただき、公平な最終判断を行っていただくためには必要と考えておりますので、要望があったことをご知らせいただくとともに、分析として加えていただくことをお願いいたします。

記

- 1 本意識調査には当然のことながら、どの候補地においても当該地住民の地元意識は大きく反映されていると考えられます。人口比率からすると当町へのアンケート実施数は80件程度と推察され、配分数としては圧倒的に少ない状況です。この状況で、旧鳥取県運転免許試験場跡地を適地と選定されたのは、643人で、北栄町以外の方から多くの回答を得ています。
- 2 候補地が無い西部地域からの回答で、最も適切な場所と選定されたのは旧鳥取県運転免許試験場跡地です。また、居住地域以外の方が選定された回答数でも同様に最も多く回答を得ています。(別紙資料1)
- 3 本日の検討委員会でも複数の委員の方から上位3候補地の回答数は、統計学的にいうと誤差の範囲内との指摘がありました。

上記の3項目を踏まえ、アンケート結果を十分に分析し、検討委員会で結論を出していただくことをお願いいたします。



なお、本町としましては、委員の意見でも多くありましたアンケート結果を尊重することにつきましては、賛同するものであります。是非とも客観的、公平に分析し、検討がなされることを願っております。

担当

企画財政課長 小澤

TEL 0858-37-5864

生涯学習課長 杉本

TEL 0858-37-5871

## 別紙資料1

### 最も適切な建設地に係る回答の分析

#### 問8、問2. 居住地域別

	1. 旧鳥取県運 転免許試験場 跡地	2. 倉吉市営ラ グビー場	3. 鳥取市役所 庁舎敷地	4. 鳥取砂丘西 側一帯	無回答 等	合計
東部	108	128	487	318	21	1,062
中部	170	308	20	20	7	525
西部	363	286	128	127	36	940
無回答	2	0	0	0	1	3
合計	643	722	635	465	65	2,530

自分の居住地域以外を最も適切な建設地と回答した数(網掛け部分)

※建設候補地1、2は、東部・西部の合計、3、4は中部・西部の合計

合計	471	414	148	147
----	-----	-----	-----	-----

#### 考 察

- ①居住地域以外の回答を合計した数では、旧鳥取県運転免許試験場跡地の回答が最も多い
- ②建設候補地がない西部では、旧鳥取県運転免許試験場跡地の回答が最も多い